

作物名：りんご

病害虫名：キンモンホソガ（学名：*Phyllonorycter ringoniella*）



キンモンホソガ被害葉

### 1 被害の特徴と診断のポイント

- ・幼虫が葉の内部に潜入して加害し、表皮をしわ寄せするため、葉の表側はテント状に盛り上がり、マインと呼ばれるやや縦長の斑点状食痕が生じる。葉裏は潜孔によって水ぶくれ状をしている。
- ・寄生数が多いと落葉が早まる。葉の機能が低下し、花芽形成、果実品質への影響がでる。

### 2 発生生態及び発生好適条件

- ・発生回数は東北南部では年5回。東北南部での発消長は、第一世代は4月下旬、第二世代は6月上旬、第三世代は7月中旬、第四世代は8月中旬、第五世代は9月中旬頃である。発生適温は20～25。
- ・第一世代は4月下旬から5月上旬にかけて発生する。新葉の裏の支脈沿いに産卵し、ふ化幼虫は葉に潜入して、葉内で蛹となる。越冬幼虫は、落葉内で蛹で越冬し翌年の発生源となる。降雪が少ないと越冬世代の生存率が高い。春期は台木のひこばえに産卵が集中する。
- ・天敵である寄生蜂も多く、キンモンホソガトビコバチなど20種程度いる。

### 3 防除方法

- ・発生量は世代交代につれて増加するため、特に第二・三世代の防除に努める。
- ・徒長枝葉に多く寄生するため、不要な徒長枝は整理する。

### 4 出典

- (1)参考文献：ひと目でわかる果樹の病害虫 第三巻（日本植物防疫協会）  
農業総論 病害虫防除・資材編 5（農文協）  
日本農業害虫大事典（全国農村教育協会）  
原色リンゴ病害虫図説（青森県りんご協会）
- (2)写真：宮城県病害虫防除所撮影